

# 明治人の姿

櫻井よしこ

Sakurai Yoshiko



小学館  
101  
新書

## はじめに

今、私たちの社会には、あまりにも多くの心痛むことがらが発生しています。信じ難くも痛ましい子殺しや親殺し、お年寄りを騙す振り込め詐欺、公務員による組織的な年金記録の改竄<sup>かいざん</sup>、さまざまな食品偽造など、日本人の道徳律の崩壊は目を覆いたくなるばかりです。こうした混迷の大きな原因はどこにあるのでしょうか。日本人が持っていたはずの価値観や美徳は、なぜ、失われてしまったのでしょうか。

というより、戦後の私たちは、前の世代の人たちがそれに基づいて暮らしていた価値観や、身につけていた<sup>きよそ</sup>挙措を、そもそも、受け継いでいたのでしょうか。戦後、そうしたものははじめから否定され、打ち捨てられてきたのではないのでしょうか。

幕末から明治期にかけて日本を訪れた外国人は、日本の庶民に至るまでの教養の高さや品のよい振る舞い、節度や慎ましさを、驚きと敬意をもって賞賛しました。かつてたしかに存在した美しい日本の文明。そこで織りなされた日本人の暮らしぶり。言葉のなかに、拳措のなかに、風習のなかに、しっかりと表現されている価値観。そうした諸々

のことを今、振り返り、当時の人々の生き方に接することが、私たちの生きているこの現代社会の深い傷を癒してくれるような気がします。

江戸から明治期にかけての男性の生き方については、『ある明治人の記録』（中公新書）の会津人・柴五郎や、『城下の人』以下四卷（中公文庫）の石光真清などが多くを語ってくれます。女性から見た当時の社会、そして女性の生き方を伝えてくれる書としては、杉本鉞子の『武士の娘』があります。実はこの書は、私自身の愛読書です。大激動の時代を生きた一人の女性の貴重な記録です。『武士の娘』を読み込めば、自ずと、かつての日本人のえも言われぬ精神の高貴さ、言動、挙措の美しさに触れることができます。そのような気がします。

鉞子は一八七二（明治五）年、代々長岡藩の城代家老を務めてきた稲垣家の六女（作中では次女）として生まれました。明治維新後の生まれではありませんが、彼女が育った時代の価値観は江戸時代そのままの延長線上にあり、鉞子の受けた教育は、まさに武家の教育そのものでした。

長岡藩は戊辰戦争で賊軍とされ、烈しい戦いの末に敗北しました。稲垣家は苦難と激

動の日々を送り、父は鉞子が幼い頃に早逝そうせいしてしまっています。その後、鉞子は兄の親友で、アメリカで貿易商を営む杉本松之助（作中では松雄）の妻となり、アメリカで暮らしますが、二人の娘を連れて日本に里帰りする船中で夫の病死という悲劇に見舞われます。しばらく日本で過ごし、子供たちに日本の教育を受けさせますが、次女の教育のため、再び渡米します。戻ったアメリカで、鉞子は生活の糧かてを得るため、日本紹介の文章を書いたのです。

鉞子が投稿したエッセイは一九二二（大正十二）年十二月から翌年十二月まで雑誌『ASSIA』に連載されました。一五年には、『A Daughter of the Samurai』のタイトルで単行本となりました。『武士の娘』の誕生です。同書はヨーロッパなど七か国で翻訳されて大きな反響も呼びました。原文の英語は、思わず声に出して読みたくなる、詩のように美しく格調高い文章で綴られています。その気品と清廉さが、欧米の読者を魅了せずにはいかなかったのでしょう。初めて日本語に翻訳されたのが、一九四三（昭和十八）年のことでした（大岩美代訳、長崎書店刊）。

その後『武士の娘』は、一九六七（昭和四十二）年に筑摩書房から再出版されました。

当時、私はハワイ大学に留学していましたが、帰国後、記者の仕事をしていた時に、長岡高校時代の同級生の青山佳子さん（旧姓関佳子さん）がお母様の書棚から、「是非お読みなさい」と言って私に送ってくださったのが、『武士の娘』と私の出会いでした。こうしていただいたお母様の本には美しい押し花が挟んでありました。

一読して、私はこの本に心打たれました。描かれている自然や日本の伝統行事の厳かな美しさは、懐しい新潟の故郷そのものでした。登場する人々の誠実で慎ましい姿が、遠い記憶の底にうち沈んで、気づかれもしなかった日本人の美徳を、この時を待っていたかのように呼び起こしてくれた気がしました。

『武士の娘』は、武士と呼ばれる人たちとその家族がいかに自らを律して清廉に生きたか、人間に対する思いやりがいかに深かったか、また、身分を超えて、日本人全体がいかに謙虚で美しい生き方を全うした人たちであったかを、改めて教えてくれます。十三歳から高校を卒業するまでのおよそ五年間を長岡で過ごした私にとって、鍔子の生きた世界は、実際に目で見た風景のように、耳で聞いたさざめきのように、縁の深いものに感じたのです。

『武士の娘』は印象的なことから満ち満ちています。なかでも胸に響くのは家族の絆の深さです。

鉦子は母が年老いてきた頃、娘二人とともに、東京に借りた家で母と暮らし始めます。やがて、嫁いでいた姉も合流し、母が亡くなるまでの最後の日々を一緒に過ごすのです。かつての日本人はこうして生涯を完結させたのかと、感銘を覚えずにはいられませんでした。

私は今、九十八歳になる母と共に暮らしています。仕事一筋で生きてきたような私にとって、母と過ごす時間は幸福と楽しさをもたらしてくれる貴重な泉のように感じられます。

今私を感じている、母と共有する時間の深い喜びは、鉦子を感じていた充足感や安心感、そして幸福感と共通のものではないかと思えます。親を大事にすることの大切さは、頭で理解するものですが、その喜びは、実際に暮らしてみても初めて実感できるものです。その深い喜びと幸福感は、おそらく鉦子のみならず、かつての日本人全員が知っていたものではないでしょうか。

人生の最期を、心を尽くして共に過ごす。日本人がその尊さや喜びを忘れ去ってしまったら、このうえなく、寂しいと思います。

東京に戻っている間、アメリカで生まれ育った二人の娘は、武士の妻として生き抜いた祖母から、さまざまなことを学びます。娘たちは、家族の歴史を知ることによって日本人が大事にしてきたことは何かを知り、自然に生活態度が変わり、人生の価値観についても影響を受けていきました。こうして日本人の生き方の基盤としての日本文明は下の世代へと伝えられていったのです。

子供は両親、祖父母、さらにその祖先の生きてきた道を知ること、自分の存在は今一瞬のものだけではないこと、長いつながりのなかにあることを実感します。自分を育んだ時間の流れという縦軸と、今自分が生きている社会という横軸が交わるところで、人間は、自らの存在を確認するのではないのでしょうか。ところが戦後の教育は、日本の過去の一切を否定し、縦軸としての時間の流れを切断しました。長い歴史のなかで培ってきた美しい風習や文明を子供たちに伝えることは間違いであるかのように、古きよきものに目をつぶってきました。これでは戦後の日本人、現代に生きる日本人が抛よって立

つ価値観を持つことができず、不安や迷いに陥るとしても、不思議ではありません。

鉞子の描いた当時の人々の暮らしぶりが、二十一世紀を生きる私たちにそのまま当てはまるわけではありません。しかし、その物語は私たちに、日本人として、そして女性としてよりよく生きるための力を与えてくれると確信しています。

この本では『武士の娘』を基本にしつつ、かつて日本人が身につけていた美德や価値観について、考えていきたいと思えます。この書が、日本人の心を次代の日本人に受け継いでいくための一助となることを、心から願いつつ。

# 明治人の姿 ● 目次

はじめに

3

## 第一章 武家の教育

—— 厳しい躰が人を育てる

13

## 第二章 武士の妻

—— 主人を支え家族を守る

33

## 第三章 女性の恋愛観

—— 家の結婚は個人を超える人生の大事

51

## 第四章 新時代への戸惑い

—— 江戸から明治への揺らぎ

71

第五章 日本人の死生観

——ご先祖様の供養は生涯のつとめ

91

第六章 男の子育て

——子供への父親の無私的愛

117

第七章 記憶の継承

——家族の看取りで完結する日本人の一生

151

おわりに

183

杉本鉞子プロフィール

188

参考文献リスト

190

## 参考文献リスト

石光真清著  
『城下の人』  
中公文庫  
780円



石光真人編著  
『ある明治人の記録』  
中公新書  
693円



渡辺京二著  
『逝きし世の面影』  
平凡社ライブラリー  
1995円



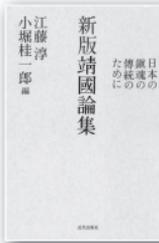
磯田道史著  
『武士の家計簿』  
新潮新書  
714円



源信著、石田瑞麿訳注  
『往生要集』(上下巻)  
岩波文庫  
945円(上)、  
735円(下)



江藤淳、小堀桂一郎編  
『新版 靖國論集』  
近代出版社  
1680円



松平容頌著  
『日新館童子訓』  
三信図書  
1260円



太田素子著  
『江戸の親子』  
中公新書  
絶版



※価格はすべて税込です

## 櫻井よしこ

さくらい・よしこ

新潟県長岡市出身。ハワイ州立  
大学歴史学部卒業。米紙「クリ  
スチャン・サイエンス・モニ  
ター」東京支局員、テレビキャ  
スターなどを経て、95年に『エ  
イズ犯罪 血友病患者の悲劇』  
(中公文庫)で大宅壮一ノンフィ  
クション賞、98年に『日本の危  
機』(新潮文庫)など一連の言  
論活動で菊池寛賞を受賞。その  
他、『何があっても大丈夫』(新  
潮社)、『憲法とはなにか』(小  
学館)、『気高く、強く、美しく  
あれ』(小学館)など著書多数。  
07年にシンクタンク「国家基本  
問題研究所」を設立。理事長と  
して政策提言を発信している。

027

## 明治人の姿



小学館  
101  
新書

二〇〇九年四月六日

初版第一刷発行

二〇一〇年五月一九日

第五刷発行

著者 櫻井よしこ

発行者 森万紀子

発行所 株式会社小学館

〒一〇一八〇〇一 東京都千代田区一ツ橋二一三一

電話 編集：〇三―三二三―〇一五八〇一

販売：〇三―五二八―一三五五五

装幀 おおうちおさむ

印刷・製本 中央精版印刷株式会社

©Sakurai Yoshiko 2009

Printed in Japan ISBN 978-4-09-825027-1

造本には十分注意しておりますが、印刷、製本など製造上の不備がございましたら「制作局コールセンター」(フリーダイヤル0120-336-340)に連絡ください。

(電話受付は、土・日・祝日を除く9:30~17:30)

☒(日本複写権センター委託出版物)

本書の全部または部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上の例外を除いて禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、事前に日本複写権センター(JRRC)の許諾を受けてください。

JRRC<<http://www.jrcc.or.jp> e-mail: [info@jrcc.or.jp](mailto:info@jrcc.or.jp) TEL 03-3401-2382